

備前市施策評価シート

(平成21年度事業)

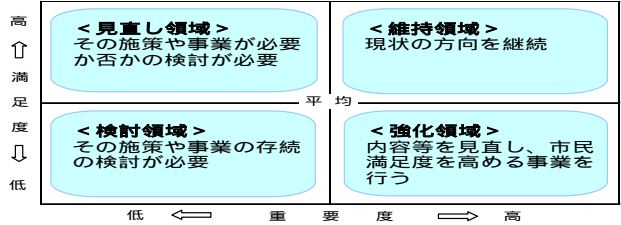
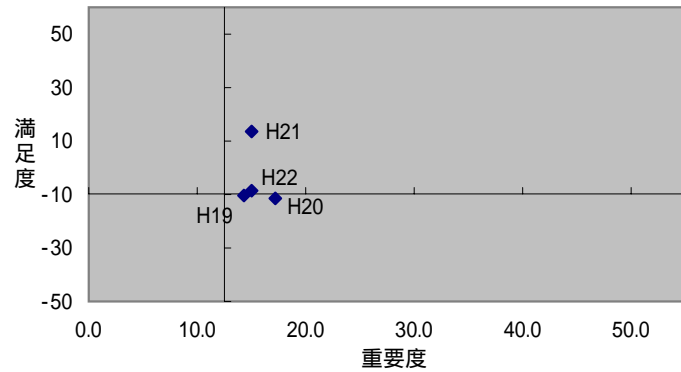
施策名 (小項目)	青少年教育	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		03-02-02	氏名	末長章彦	
			電話	64-1841	
		このシート作成に要した時間		1.5 時間	

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	生きがいのあるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	20歳未満の青少年の健全な育成を期す	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	子供たちを取り巻く環境として、インターネットや携帯電話の普及、規制の概念が通用しなくなる価値観の多様化など、大きな変化がおきている。非常に多感で人間形成上最も配慮を要す子供たちを、学校、家庭、地域社会が一体となって考え、地域で子どもを育てる気運を醸成しなければならない。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育の充実 放課後子どもプランの検討 青少年健全育成活動の充実 青少年健全育成推進本部活動の推進 青少年育成センターの運営 青少年の主体的活動の促進 青少年協議会やFOS少年団などの団体育成支援 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21	H22
重要度(%)	14.3	17.2	15.0	15.0
満足度(%)	-10.4	-11.5	13.6	-8.6



調査結果に対するコメント、市民の反応等	市民意識調査では、各地域ともに重要度が高く、地域の教育力への期待が高まっている。特に青少年健全育成事業では、各地区育成会の取り組みに大きな期待が寄せられている。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H19	H20	H21		H22	
成果指標 青少年健全育成講演会・健全育成大会参加者数	目標	人	1,000	1,000	1,000	H22	1,000
	実績	人	867	889	868	H23	1,000
	達成率	%	86.7	88.9	86.8	H28	1,000
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク					-	-

施策構成事務事業の評価

施策を構成する 事務事業	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)									施策への 貢献度	経費の 性質 義務的 経常的 その他	
				平成19年度			平成20年度			平成21年度					
				直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数			
1	放課後子どもプラン事業	D	放課後子ども教室推進事業	単市	0	250	0.03	0	183	0.03	-	-	-		人件費のみ
2	青少年健全育成事業	B	青少年健全育成推進本部補助事業	単市	1,800	4,094	0.50	1,500	1,467	0.18	1,500	1,320	0.17		その他
			青少年育成センター運営事業	単市	9,977			9,614	2,574	0.33	9,334	1,671	0.20		その他
3	青少年活動支援事業	C	備前市青年協議会補助事業	単市	327	150	0.02	262	76	0.01	262	76	0.01		その他
			備前市FOS少年団補助事業	単市	381			305	2,438	0.37	305	2,382	0.31		その他
				平成19年度			平成20年度			平成21年度					
				12,485	4,494	0.55	11,681	6,738	0.92	11,401	5,449	0.69			

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	青少年を取り巻く環境の変化について、まず、保護者が理解しなければならない。その上で「地域の子どもは地域で育てる」とする気運を醸成し、将来を担う子どもたちを育てていく必要がある。多くの保護者に、インターネットや携帯電話のルール作りを考えてもらいたい。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	3	多くの保護者に様々な機会を提供し、子どもや大人の課題を克服するための講演会や懇談会を設けているが、この取り組みに興味を示さない一部の保護者がいる。そうした保護者が進んで参加できる手法を見つける必要がある。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4	小中高校生全般では、各地域の挨拶運動や見守り活動により、素直で穏やかに成長している。普段の大人たちの姿勢が、子どもの生活に反映するものであるため、引き続き取り組んでいかなければならない。一部の指導を要す子どもたちへの対応も継続していく。	
本年度(H22年度)取組内容 (課題解決状況)		健全育成講演会での講演内容を、非行防止の内容から、科学的観点での健全な生活習慣の必要性を説くものに変更し、より多くの保護者が共感できるように努める。	
翌年度(H23年度)取組目標		保護者に子どもを取り巻く環境の変化に関する最新情報を届けるよう努め、その対処法をお互いに話し合える機会を作っていく。	
二次評価者コメント		本市では「地域の子どもは、地域で育てる」の気運が醸成されており、地域の教育力が果たす役割が大きく、現時点で大きく奏功しているが、各地域実践者の高齢化が憂慮される。各地域の指導的役割を果たす人たちに、後継者育成の促進を図ることが重要課題と思われる。	
役職 教育次長 氏名 竹中 史朗		基本施策への 貢献度 3 中立	